湖東・湖北
毎月第３日曜日発刊
2021 7月号 Vol.140
毎日ナビ
毎日新聞湖北ブロック会　協賛
毎日新聞湖北ブロック会事務局（毎日新聞長浜販売所）
滋賀県長浜市小堀町 347-5　TEL.0749-62-0954
制作 / オフィスいしやま（毎日新聞大津販売）

湖　東

彦根

彦根城のお堀に6年ぶりの白鳥ベビー

国宝・彦根城（彦根市金亀町）の内堀で白鳥の赤ちゃんが元気に育っている。6月12日、彦根城運営管理センター職員が餌をやろうとしたところ、体長約20㌢のヒナ3羽がかえっているのをみつけた。うち1羽が成長し、内堀に出て親鳥と一緒に泳ぎ回っている。

彦根城で白鳥のヒナが生まれたのは6年ぶり。現在、城内の成鳥は3羽しかおらず、同センターは外敵に襲われないよう大切に見守っている。

石垣をバックに優雅に泳ぐ白鳥の姿は、地元住民や観光客らに親しまれてきた。毎年秋には痛みを感じないよう配慮しながら風切り羽をカットし、鳥インフルエンザ流行時には小屋で隔離して城周辺で飼育してきた。1990年代半ばには黒鳥も含め約40羽まで繁殖。同じ国宝の天守閣を持つ長野県の松本城につがいを贈ったこともあった。

【彦根通信部・伊藤信司】

彦根城の内堀を泳ぐ親子の白鳥＝彦根城運営管理センター提供

湖　北

長浜

「未来宣言」掲額を除幕
長浜・曳山博物館

除幕した「未来に向けての宣言」の掲額を見上げる吉田豊・総当番委員長（右から２人目）ら

長浜曳山まつりを後世に継承する決意を込めた「未来に向けての宣言」の掲額の除幕式が6月24日、長浜市曳山博物館で行われた。

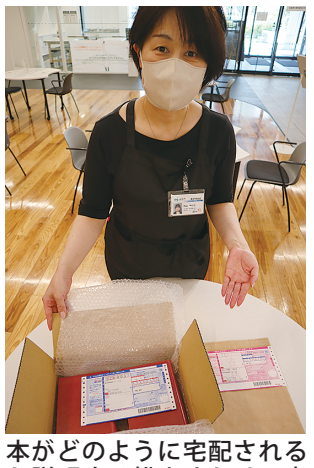
宣言文は今年4月1日に長浜市議会議場でまつりを統括する吉田豊・総当番委員長や藤井勇治・長浜市長、大塚敬一郎・長浜曳山文化協会理事長、岸本一郎・長浜観光協会長の4者連名で発表された。「祭りの継承の精神は、私たちの誇れる財産として新しい時代に歴史を紡いでいく使命がある」とし、「長浜曳山祭を未来永劫に執行するため協力していく」と決意を表している。

広く一般の人にも見てもらえるように、同博物館で「宣言」の額を掲げることになった。除幕式で吉田・総当番委員長は「新しい時代のスタート」を強調し、「祭りを継承していくことに意義がある」とあいさつした。

【長浜通信部・長谷川隆広】

長浜

長浜図書館が本の宅配サービス


本がどのように宅配されるか説明する松山ゆかり司書

長浜市立長浜図書館が5月から本の宅配サービスを始めた。けがや病気などで図書館に来ることができない市民に所蔵の本を郵送で貸し出す県内初の取り組み。

図書館利用カードと宅配利用登録が必要だが、どちらも郵送で登録手続きをすることができる。宅配希望の本は、電話やメール、ファクスなどで同図書館に申し込む。書名が分からなければ「○○関係の本」などの表現でも可能。図書館司書が折り返しの電話で本を探す手助けをしてくれる。本はゆうパックで申し込み日の翌日には発送される（休館日を除く平日）。受け取り、返却とも送料は自己負担となるが、市立の6図書館で直接返却する方法もある。

長浜図書館の松山ゆかり司書は「新型コロナ禍などで臨時休館となった場合でも宅配サービスの利用はできる。どんな時でも本を読んでもらえれば」と話している。

【長浜通信部・長谷川隆広】

彦根

彦根工高が女子生徒向けパンフ

2022年度の生徒募集に向け、彦根工業高校（彦根市南川瀬町）が少女漫画風のイラストをあしらったパンフ2種を作成した。多くの女子生徒にも志願してもらおうと、同高美術部員がデザインした。

学校案内パンフの表紙では、電球や金づちを持つ女子が登場。中を開くと機械、電気、建設各科の紹介があり、溶接やパソコンに取り組む女子が描かれている。

部活動パンフの表紙では、青空を背景に少女が髪をなびかせている。次ページからは「君たちの活躍の場はこの中にある！」と題し、女子も参加している水泳部、テニス同好会、卓球部など計21枚の写真を掲載している。

同高は今年度、文部科学省の「マイスター・ハイスクール」に選ばれ、高度な技術者の育成を目指している。10月16日と11月21日に体験入学も予定している。

【彦根通信部・伊藤信司】

高内業案工動根活彦部たと作案に校成内され（左）た学新の